世界の始まり

無から有を呼び出される神

創世記1:1～5

1:1 初めに、神が天と地を創造した。
1:2 地は形がなく、何もなかった。やみが大いなる水の上にあり、神の霊は水の上を動いていた。
1:3 そのとき、神が「光よ。あれ。」と仰せられた。すると光ができた。
1:4 神はその光をよしと見られた。そして神はこの光とやみとを区別された。
1:5 神は、この光を昼と名づけ、このやみを夜と名づけられた。こうして夕があり、朝があった。第一日。

神（創造主）によって呼び出された宇宙

宇宙は、**「無から有を呼び出される神」**（ロマ4:17）によって、存在へと呼び出された。**「最初のちり」**（歳言8:26）に始まって、宇宙空間に存在し始めた無数のチリは、のちに地球をはじめ、その他の星々を形成したと考えられる。

神がまだ地も野原も、この世の最初のちりも造られなかったとき・・・（箴言8:26）

第一日　光が創造された（創1:3）

光が創造されるまでは、真に闇の世界であった。この時点では太陽はない。真の闇である。

そして、主の一声で光が造られた。地球上で生きている私たちは、光と言えばそれは太陽であると錯覚している。しかし、**太陽は光源であって光の本質ではない。**電球と本質的には何の差もなく光を出している光源であって、光そのものではない。

何かの隙間から光が漏れてくる場合に、その道筋が明らかに見えて光を光だと認識できる。

光は物理学的に波であり粒子であると説明されている実態なのである。

第二日　大空が造られた（創1:6）

1:6 ついで神は「大空よ。水の間にあれ。水と水との間に区別があるように。」と仰せられた。
1:7 こうして神は、大空を造り、大空の下にある水と、大空の上にある水とを区別された。するとそのようになった。
1:8 神は、その大空を天と名づけられた。こうして夕があり、朝があった。第二日。

誕生当初の地球は、水蒸気を主成分とする膨大な量の**水蒸気大気**におおわれていた。

聖書はそれを、**「大いなる水」**（創世1:2）と呼んでいるが、きわめて短期間のうちに、**「大空の上の水」**（水蒸気層）、**「大空」**（大気）、**「大空の下の水」**（海洋）とに分立した（創世1:7）。

「大いなる水」

「大空の上の水」（水蒸気層）

「大空」（大気）

「大空の下の水」（海洋）

第三日　大地と海、食物

海洋は、はじめ地表の全域をおおっていたが、海の中から大陸が現れ、**海と陸とは分離**した。**当時の大陸は、一つ**であった。

そののち、地表に造られた植物は、**炭酸同化作用**によって酸素を放出し、大気中に、遊離状態にある酸素を増加させた。また、植物は様々の有機物質から成っているため、動物や人間が食べる食物としてふさわしいものだった。

最高の地球環境であった恐竜も生息

大洪水以前の地球は、上空に厚い水蒸気層があったので、地表はどこも、緯度の高低にかかわらず、**ビニールハウスの中のように温暖**だった。砂漠や万年氷原はなく、どこもみずみずしい植物におおわれ、恐竜をはじめとする**巨大生物も存在**していた。

大洪水により水蒸気層消失

しかしノアの日に、水蒸気層は大雨となり、**「40日40夜」**地の上に降った。当時の大陸は現在よりずっとなだらかだったので、水は地の全面をおおった。

地表に様々な変化を生じた

さらに、水面は大雨のやんだ後も上昇し続け、**「水は150日間、地の上に増え続けた」**（創世7:24）。

これは、大洪水に洗われた地表に様々な変化が生じ、地下水が解き放たれ、また**「山は上がり、谷は沈んだ」**（詩篇104:8）からである。

大陸は、現在の形のように分離

しかしその後、水は**「しだいに地から引いていった」**（創世8:3）。

それは、世界各地で山々が隆起し、谷は沈下して、地表の起伏が激しくなったからである。水は低い所にたまり、海面上に出た所が陸となった。またこの変動によって、もともと一つであった**大陸は、現在の形のように分離**した。

多くの動植物が死に絶え化石化

大洪水によって、多くの動植物が死に絶えた。**氷づけにされたマンモス**や、死のもがきのまま地層内に捕えられた多くの生物の化石が、それを物語っている。　世界の地層の出来方は、進化論よりも大洪水の考えによって、よく説明できる。

地表の劇的変化により化石化

大洪水によって、地層は急速に堆積し、その中には様々の化石が形成された。**化石は、このような激変的過程によらなければ、決して形成されない**のである。

地表は一変し人類は短命化

大洪水後、地表の様相は一変した。気候は変わり、極地は氷に閉ざされた。地表は再形成され、生態系も変わった。

また、**水蒸気層の取り去られた後の地球**には、宇宙線や紫外線等の照射が強くなり、人間の寿命は短くなったと考えられる。

若い地球・若い人類

進化論者は、地球の年齢を約45億年、人類の年齢を2・300万年としているが、多くの信頼できる証拠は、地球も人類ももっと若いことを示している。

生命の自然発生はあり得ない

進化論者は「長い時間」を求めた。しかし仮に、地球の年齢が45億年あったとしても、あるいはそれ以上あったとしても、そこに**生命が自然に発生する確立はゼロ**である。

地球や、そこに住むすべての生物、また人類は聖書の述べているように、最近創造されて出現したものだと考えた方が、理にかなっている。